

平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年2月10日

上場会社名 シダックス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4837 URL <http://www.shidax.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 志太 勤一  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 管理本部長 兼 IR 担当 (氏名) 若狭 正幸 TEL 03-5784-8909  
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績（平成27年4月1日～平成27年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	120,820	△9.8	△838	—	△1,279	—	△1,611	—
27年3月期第3四半期	133,986	△6.5	632	△69.2	220	△85.4	3,649	—

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 △2,078百万円 (—%) 27年3月期第3四半期 4,459百万円 (514.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	△41.34	—
27年3月期第3四半期	93.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第3四半期	84,087	17,066	20.3	437.86
27年3月期	92,338	26,133	28.3	670.44

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 17,066百万円 27年3月期 26,133百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	158,100	△9.4	△700	—	△1,200	—	△1,500	—	△38.48

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日（平成28年2月10日）公表いたしました「特別利益、特別損失の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料P. 5「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期3Q	40,918,762株	27年3月期	40,918,762株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	1,940,287株	27年3月期	1,939,913株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期3Q	38,978,654株	27年3月期3Q	38,979,486株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についての御注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法）

当社は、第2四半期決算及び期末決算において、機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催しております。この説明会で配布しました資料を当社ホームページ（<http://www.shidax.co.jp/ir/>）に掲載しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12
(追加情報)	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策を背景に、景気は緩やかな回復基調にあるものの、アジア新興国等の景気下振れ懸念や円安に伴う輸入原材料の価格上昇など、景気の先行きは不透明な状況にあり、引き続き厳しい経営環境となっております。このような環境のもと、当社グループは、“フードサービスから公共サービスまで提供可能な水平垂直統合型の企業構造”で他社との差別化を図り、プレミアムブランド戦略による高品質・高付加価値のサービスを提供するとともに、より一層の「安心・安全」な管理体制の強化、グループ総合力を活かしたトータルアウトソーシングによる営業拡大に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は120,820百万円（前年同四半期比9.8%減）となりました。利益面につきましては、レストランカラオケ事業の売上高の減少等により営業損失は838百万円（前年同四半期は632百万円の営業利益）となり、経常損失は1,279百万円（前年同四半期は220百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,611百万円（前年同四半期は3,649百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、「スペシャリティレストラン事業」は「その他」のセグメントに含めることといたしました。以下のセグメント別の業績は、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で比較しております。

#### ①エスロジックス事業

当社グループのスケールメリットを最大限に活かし、安全性・信頼性の高い商品を徹底した衛生管理体制で一括発注・配送を展開してまいりました。また、一元物流システムをより合理的に活用できるよう、標準メニュー導入の促進、調達コスト上昇の抑制、物流費値上げの抑制などに努めるとともに、同業他社とのアライアンスによる共同購買機構によって、スケールメリットを最大限に活用し、収益性の向上にも努めてまいりました。さらに、健康効果が期待される食事メニューの開発、トレーサビリティ、アレルギー関連など、付加価値の向上にも努め「安心・安全」な食材の供給を行ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の内部売上高を含めた売上高は31,115百万円（前年同四半期比2.9%減）、セグメント利益は2,135百万円（前年同四半期比5.4%減）となりました。

#### ②コントラクトフードサービス事業

大手同業他社との競争激化に加え、原材料価格の高騰など経営環境は依然として厳しい状況にあります。このような環境のもと、特選中華フェア「揚げ鶏のXO醤仕立て」などメニューフェアの実施、労務・経費管理の徹底、既存店舗の解約防止、赤字店舗の運営改善強化などによって収益性の向上に取り組んでまいりました。多様化するお客様のニーズを的確に捉え、グループ総合力を活かした総合的なソリューションサービスの提案を行い、新規案件とも連動して開発を強化し、事業拡大に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は22,476百万円（前年同四半期比3.8%減）、セグメント利益は1,219百万円（前年同四半期比5.9%増）となりました。

#### ③メディカルフードサービス事業

大手同業他社との競争激化に加え、原材料価格の高騰など経営環境は依然として厳しい状況にあります。このような環境のもと、高品質なサービスの提供を行うとともに、セントラルキッチンを活用した「やわらかマザーフード食」や、季節の彩り溢れる食材を重箱へ盛り付けし、高級感をアップした「御膳シリーズ」の商品提供を行うなど、お客様満足度の向上に努めてまいりました。また、労務管理の徹底、既存店舗の解約防止、赤字店舗の運営改善強化などによって収益性の向上に取り組んでまいりました。多様化するお客様のニーズを的確に捉え、グループ総合力を活かした総合的なソリューションサービスの提案を行い、新規案件とも連動して開発を強化し、事業拡大に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は25,905百万円（前年同四半期比3.7%減）、セグメント利益は695百万円（前年同四半期比0.9%減）となりました。

## ④ レストランカラオケ事業

個人消費が消費税増税後に急速に落ち込み、依然回復は鈍く、節約志向が高まり、低価格競争も激化しており、競合他社はもとより業種を超えた競争の激化など、事業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。このような環境のもと、秋・冬グランドメニュー、「ゆったりランチ」の強化・推進、夏季特別キャンペーン「総額5億円！レストランカラオケ・シダックス夏の感謝祭！」などのイベントを展開、マンスリースイーツが御楽しみ頂けるレディースデー、厚切り牛タンとビールセットが御楽しみ頂けるメンズデー、毎週日曜日キッズメニューが200円（通常480円）のキッズファミリーデー、平日17時～20時30分の利用がお得な「ちょい呑みセット」、月～木曜日20時以降のご清算でスタンプ2倍の「夜の特別スタンプカード」を開始するなど様々な集客施策を行い、販売促進を強化するとともに、コスト管理を徹底し、収益性の向上に努めてまいりました。また、2015年12月新宿に訪日外国人観光客の需要を捉えた「シダックス」「ビックカメラ」共同新業態「シダックス新宿セントラルロードクラブ×ビックドラッグ」をオープン致しました。さらに、ケータイ会員を拡大（910万人突破）し集客を図るとともに、ターゲットを明確にしたOne to Oneマーケティングによる個々の顧客へのアプローチを確立し、マーケティングの精度・効果の向上に努めてまいりました。しかしながら、個人消費が回復に至らない中、競合他社との低価格競争及び他業種との顧客獲得競争の激化等の影響により、大変厳しい状況となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は23,180百万円（前年同四半期比17.2%減）、セグメント損失は1,565百万円（前年同四半期は1,151百万円のセグメント利益）となりました。

## ⑤ コンビニエンス中食事業

同業他社・大手コンビニエンスストアとの出店競争が依然厳しい環境ではありますが、新規店舗を14店舗出店し、お客様の生活ニーズに応じた利便性向上・満足度向上の実現に取り組んでまいりました。商品・サービス面においては、地域特産品やこだわりの逸品の品揃えを強化すると共に、駅弁フェア、クリスマスケーキ、御節の予約販売、衣料品等の非食品催事など、販売促進を行ってまいりました。また、運営面では、労務費及び消耗品などの経費の効率的運用を行い、既存店のブラッシュアップと赤字店舗の改善に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は11,089百万円（前年同四半期比0.6%減）、セグメント利益は206百万円（前年同四半期比14.0%減）となりました。

## ⑥ トータルアウトソーシング事業

公共サービス分野では、政府が掲げる「地方創生」政策のもと、地方自治体における財政再建と地域活性化へのニーズが高まっており、引き続き民間委託が進んでおります。一方、民間サービス分野では、景気回復傾向にあるものの、依然として不透明な状況であり、厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、車両運行管理業務においては、社員教育の充実と各種法令に従った業務体系を構築した上で、お客様のニーズに応じた適正価格にて受託するように努めてまいりました。

社会サービス業務においては、従来からの事業の柱であります学校給食業務を静岡県牧之原市や埼玉県狭山市等から、施設管理業務については岐阜県関市や茨城県取手市等から新規に受託し、既存の店舗においてはグループのノウハウを活かした運営に努め、事業拡大と収益向上に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は30,502百万円（前年同四半期比3.5%増）、セグメント利益は1,965百万円（前年同四半期比74.0%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ8,250百万円減少し84,087百万円（前連結会計年度末比8.9%減）となりました。流動資産においては、3,699百万円増加し34,992百万円となりました。これは主に、その他に含まれている未収入金が813百万円、前払費用が352百万円減少した一方、現金及び預金が3,588百万円、受取手形及び売掛金が221百万円、原材料及び貯蔵品が151百万円及びその他に含まれている繰延税金資産が485百万円、未収法人税・住民税が283百万円増加したことによります。固定資産においては、11,950百万円減少し49,095百万円となりました。これは主に、「添付資料 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」に記載のとおり、当該企業結合に関する会計基準等を適用したこと等によりのれんが6,455百万円減少したほか、有形固定資産が2,995百万円及び投資その他の資産が2,281百万円減少したことによります。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ815百万円増加し67,021百万円（前連結会計年度末比1.2%増）となりました。流動負債においては、3,162百万円減少し36,447百万円となりました。これは主に、買掛金が294百万円、訴訟損失引当金が220百万円及びその他に含まれている未払金が1,207百万円増加した一方、1年内償還予定の社債が200百万円、1年内返済予定の長期借入金が1,322百万円、未払法人税等が330百万円、賞与引当金が845百万円及びその他に含まれている未払消費税等が1,882百万円、1年内返済予定のリース債務が750百万円減少したことによります。固定負債においては、3,977百万円増加し30,573百万円となりました。これは主に、社債が560百万円及びその他に含まれているリース債務が1,092百万円、長期未払金が253百万円減少した一方、長期借入金が5,802百万円増加したことによります。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ9,066百万円減少し17,066百万円（前連結会計年度末比34.7%減）となりました。これは主に、「添付資料 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」に記載のとおり、当該企業結合に関する会計基準等を適用したことにより資本剰余金が4,128百万円、利益剰余金が2,274百万円減少したほか、親会社株主に帰属する四半期純損失1,611百万円の計上と剰余金の配当584百万円により利益剰余金が2,196百万円減少したことによります。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ8.0ポイント低下し20.3%となりました。

## (キャッシュ・フローの状況に関する分析)

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ3,583百万円増加し13,954百万円（前連結会計年度末比34.5%増）となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、1,763百万円の資金増加（前年同四半期は5,198百万円の資金増加）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失が1,312百万円計上されたほか、賞与引当金の減少額が845百万円及び未払消費税の減少額が1,882百万円あった一方、減価償却費が3,941百万円、減損損失が277百万円、訴訟損失引当金が220百万円及び未払金の増加額が1,129百万円あったことによります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、797百万円の資金増加（前年同四半期は3,211百万円の資金増加）となりました。これは主に、定期預金及び拘束性預金の預入による支出が383百万円、有形固定資産の取得による支出が795百万円及び資産除去債務の履行による支出が193百万円あった一方、定期預金及び拘束性預金の払戻による収入が310百万円、有形固定資産の売却による収入が228百万円、投資有価証券の売却による収入が728百万円、連結範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入が546百万円及び保険積立金の払戻による収入が411百万円あったことによります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、1,022百万円の資金増加（前年同四半期は3,952百万円の資金減少）となりました。これは主に、リース債務の返済による支出が1,874百万円、長期借入金の返済による支出が11,520百万円、社債の償還による支出が760百万円、配当金の支払額が584百万円及び割賦債務の返済による支出が238百万円あった一方、長期借入れによる収入が16,000百万円あったことによります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年5月15日に公表いたしました通期の連結業績予想につきましては、今回修正を行っております。詳細につきましては、本日（平成28年2月10日）公表いたしました「特別利益、特別損失の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（企業結合に関する会計基準等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第3四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58－2項(3)、連結会計基準第44－5項(3)及び事業分離等会計基準第57－4項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、過去の期間のすべてに新たな会計方針を遡及適用した場合の第1四半期連結会計期間の期首時点の累積的影響額を資本剰余金及び利益剰余金に加減しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首において、のれん6,403百万円及び資本剰余金4,128百万円が減少するとともに、利益剰余金が2,274百万円減少しております。また、当第3四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ364百万円減少しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,146	14,735
受取手形及び売掛金	12,856	13,077
商品及び製品	1,105	1,181
原材料及び貯蔵品	762	914
その他	5,431	5,095
貸倒引当金	△10	△11
流動資産合計	31,292	34,992
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,398	12,099
土地	10,425	10,388
その他(純額)	6,016	4,355
有形固定資産合計	29,840	26,844
無形固定資産		
のれん	7,861	1,406
その他	1,088	870
無形固定資産合計	8,949	2,276
投資その他の資産		
敷金及び保証金	8,120	7,836
その他	14,401	12,340
貸倒引当金	△265	△201
投資その他の資産合計	22,256	19,975
固定資産合計	61,046	49,095
資産合計	92,338	84,087



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	7,718	8,013
1年内返済予定の長期借入金	12,066	10,744
1年内償還予定の社債	760	560
未払法人税等	675	345
ポイント引当金	317	295
役員賞与引当金	59	36
賞与引当金	1,806	961
株主優待引当金	289	118
訴訟損失引当金	—	220
その他	15,917	15,153
流動負債合計	39,609	36,447
固定負債		
社債	740	180
長期借入金	18,570	24,372
役員退職慰労引当金	658	682
資産除去債務	3,005	3,016
その他	3,621	2,323
固定負債合計	26,595	30,573
負債合計	66,205	67,021
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,781	10,781
資本剰余金	4,128	—
利益剰余金	10,527	6,056
自己株式	△806	△806
株主資本合計	24,631	16,032
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	588	161
為替換算調整勘定	913	873
その他の包括利益累計額合計	1,501	1,034
純資産合計	26,133	17,066
負債純資産合計	92,338	84,087

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	133,986	120,820
売上原価	118,282	108,023
売上総利益	15,703	12,797
販売費及び一般管理費	15,070	13,635
営業利益又は営業損失(△)	632	△838
営業外収益		
受取利息	60	87
受取配当金	10	10
団体定期配当金	96	150
関係会社持分売却に伴う債権評価益	—	130
負ののれん償却額	111	102
その他	159	129
営業外収益合計	438	611
営業外費用		
支払利息	696	708
持分法による投資損失	—	236
その他	154	108
営業外費用合計	850	1,052
経常利益又は経常損失(△)	220	△1,279
特別利益		
固定資産売却益	19	27
投資有価証券売却益	—	575
関係会社株式売却益	5,444	—
退店補償金受入益	160	—
特別利益合計	5,624	603
特別損失		
減損損失	50	277
レストラン等店舗閉鎖損	12	131
訴訟損失引当金繰入額	—	220
その他	1	7
特別損失合計	64	636
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	5,780	△1,312
法人税、住民税及び事業税	542	545
法人税等調整額	1,602	△246
法人税等合計	2,145	298
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,635	△1,611
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△14	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	3,649	△1,611

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	3,635	△1,611
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	35	△427
為替換算調整勘定	604	△13
持分法適用会社に対する持分相当額	184	△26
その他の包括利益合計	824	△466
四半期包括利益	4,459	△2,078
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,502	△2,078
非支配株主に係る四半期包括利益	△42	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	5,780	△1,312
減価償却費	4,195	3,941
減損損失	50	277
のれん償却額及び負ののれん償却額	525	52
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,015	△845
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△20	△62
訴訟損失引当金の増減額(△は減少)	—	220
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△155	△170
受取利息及び受取配当金	△70	△98
支払利息	696	708
関係会社株式売却損益(△は益)	△5,444	—
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△575
持分法による投資損益(△は益)	△47	236
関係会社持分売却に伴う債権評価益	—	△130
固定資産売却損益(△は益)	△19	△27
退店補償金受入益	△160	—
売上債権の増減額(△は増加)	△1,050	△221
たな卸資産の増減額(△は増加)	△213	△226
未収入金の増減額(△は増加)	112	560
仕入債務の増減額(△は減少)	388	294
未払消費税等の増減額(△は減少)	1,002	△1,882
未払金の増減額(△は減少)	1,164	1,129
未払費用の増減額(△は減少)	332	△27
預り金の増減額(△は減少)	543	539
その他	865	1,147
小計	7,461	3,527
利息及び配当金の受取額	34	35
利息の支払額	△696	△669
退店補償金の受取額	160	48
和解金の支払額	△32	—
法人税等の支払額	△1,729	△1,178
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,198	1,763

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金及び拘束性預金の預入による支出	△3,849	△383
定期預金及び拘束性預金の払戻による収入	3,429	310
有形固定資産の取得による支出	△657	△795
有形固定資産の売却による収入	801	228
無形固定資産の取得による支出	△315	△113
資産除去債務の履行による支出	△117	△193
投資有価証券の売却による収入	—	728
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	3,690	546
貸付金の回収による収入	194	78
敷金及び保証金の差入による支出	△44	△21
敷金及び保証金の回収による収入	273	187
保険積立金の払戻による収入	—	411
その他	△192	△185
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,211</b>	<b>797</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	2,000	2,000
短期借入金の返済による支出	△2,000	△2,000
割賦債務の返済による支出	△233	△238
リース債務の返済による支出	△1,574	△1,874
長期借入れによる収入	8,480	16,000
長期借入金の返済による支出	△9,203	△11,520
社債の償還による支出	△760	△760
配当金の支払額	△585	△584
非支配株主への配当金の支払額	△75	—
自己株式の取得による支出	△0	△0
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△3,952</b>	<b>1,022</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	507	△0
<b>現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)</b>	<b>4,964</b>	<b>3,583</b>
現金及び現金同等物の期首残高	10,810	10,371
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>15,775</b>	<b>13,954</b>

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は第1四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」等を適用しております。この結果、資本剰余金が4,128百万円、利益剰余金が2,274百万円、それぞれ減少しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	エスロジ ックス事 業	コントラ クトフー ドサービ ス事業	メディカ ルフード サービス 事業	レストラ ンカラオ ケ事業	コンビニ エンス中 食事業	トータル アウトソ ーシング 事業	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	1,278	23,363	26,907	27,990	11,161	29,463	120,166	13,819	133,986
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	30,749	699	7	234	20	130	31,842	1,426	33,268
計	32,028	24,062	26,915	28,225	11,182	29,594	152,009	15,246	167,255
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	2,256	1,152	701	1,151	240	1,129	6,631	△970	5,660

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内におけるスペシャリティーレストラン事業及び、エステティックサロン・リラクゼーションサロンの運営等を含んでおります。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

「その他」セグメントにおいて、第2四半期連結会計期間に当社連結子会社であるRestaurant Hospitality, LLCの持分の一部を譲渡した事に伴い、Restaurant Hospitality, LLC及びその100%連結子会社Patina Restaurant Group, LLC 他事業子会社等17社を連結の範囲から除外しております。

なお、前連結会計年度末において当該資産は「その他」セグメントに10,359百万円計上されております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	6,631
「その他」の区分利益	△970
セグメント間取引消去	33
全社費用(注)	△5,061
四半期連結損益計算書の営業利益	632

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

上記2の通り、Restaurant Hospitality, LLC及びその100%連結子会社Patina Restaurant Group, LLC他事業子会社等17社を連結の範囲から除外しております。

なお、前連結会計年度末において当該のれんは「その他」セグメントに863百万円計上されております。

(重要な負ののれん発生益)

当第3四半期連結累計期間において、重要な負ののれん発生益の認識はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	エスロジ ックス事 業	コントラ クトフー ドサービ ス事業	メディカ ルフード サービス 事業	レストラ ンカラオ ケ事業	コンビニ エンス中 食事業	トータル アウトソ ーシング 事業	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	1,381	22,476	25,905	23,180	11,089	30,502	114,536	6,284	120,820
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	29,733	739	5	348	24	207	31,059	1,427	32,487
計	31,115	23,216	25,910	23,529	11,113	30,710	145,595	7,711	153,307
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	2,135	1,219	695	△1,565	206	1,965	4,656	△651	4,004

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内におけるスペシャリティレストラン事業及び、エステティックサロン・リラクゼーションサロンの運営等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,656
「その他」の区分利益	△651
セグメント間取引消去	30
全社費用(注)	△4,873
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△838

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から、従来「スペシャリティーレストラン事業」として記載していた報告セグメントにつきましては、量的な重要性が乏しくなったため「その他」の区分に含めて記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分に基づき作成したものを記載しております。

## (企業結合に関する会計基準等に関する事項)

「添付資料 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、当該企業結合に関する会計基準等を適用したことにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益は、「メディカルフードサービス事業」で0百万円、「コンビニエンス中食事業」で4百万円、「トータルアウトソーシング事業」で358百万円、それぞれ増加しております。また、セグメント損失は、「その他」で0百万円減少しております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

## (固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識はありません。

## (のれんの金額の重要な変動)

「添付資料 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、当該企業結合に関する会計基準等を適用したことにより、のれんは第1四半期連結会計期間の期首において「メディカルフードサービス事業」で2百万円、「コンビニエンス中食事業」で15百万円、「トータルアウトソーシング事業」で6,382百万円、「その他」で3百万円それぞれ減少しております。

## (重要な負ののれん発生益)

当第3四半期連結累計期間において、重要な負ののれん発生益の認識はありません。

## (追加情報)

## 厚生年金基金の解散方針決議について

当社の連結子会社である大新東㈱が加入する「東京都自動車整備厚生年金基金」は、平成26年9月24日に開催された代議員会において、解散の方針が決議されました。同基金の解散までの期間において資産運用環境の変化等の不確定な要素もあるため、現時点では解散に伴う費用の発生と業績に与える影響について合理的な算定ができません。